

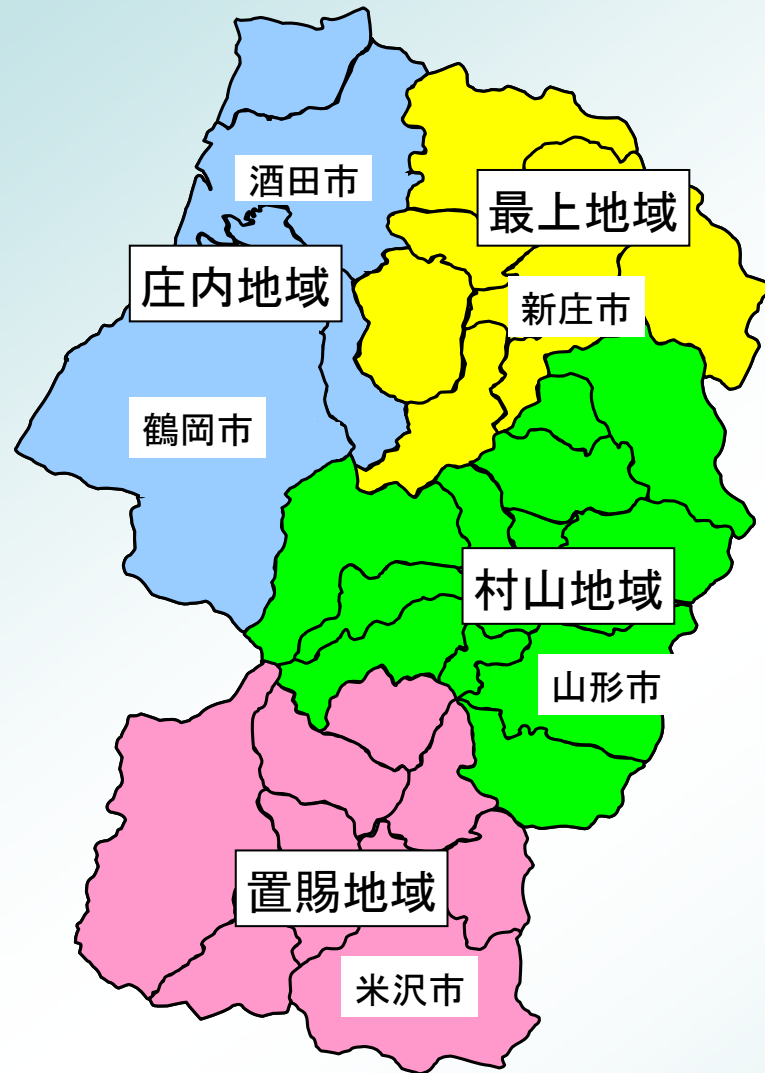
山形県循環型社会形成推進計画 ～ごみゼロやまがた推進プラン～



山形県文化環境部
循環型社会推進課

鈴木 孝幸

山形県の概要



- ・ 山形県の人口 1,216,181人
- ・ 世帯数 386,728世帯
- ・ 共働き世帯の割合 42.9% (全国1位)
- ・ 核家族世帯の割合 45.8% (全国47位)

- ・ 第一次産業就業者比率 11.1% (全国10位)
- ・ 第二次産業就業者比率 34.8% (全国11位)
- ・ 第三次産業就業者比率 54.1% (全国46位)

- ・ 県民所得(県民1人当たり) 2,377千円
(全国39位)

- ・ 一般廃棄物の排出量が少ない
- ・ 循環型産業やリサイクル市場が未成熟

ごみゼロやまがた推進プランの基本目標

- **全国一ごみの少ない山形県**
- **循環型産業の発展**



10年後



ごみゼロやまがた推進プラン基本数値目標

1 発生抑制に関する基本的数値目標

項目	現在値(H16)	目標値(H22)	目標値(H27)
ごみ(一般廃棄物)の排出量	451千トン	441千トン	417千トン
※ 一人一日当たりのごみの排出量	884グラム	853グラム	780グラム
産業廃棄物の排出量	3.813千トン	3.777千トン	3.734千トン

2 資源の循環利用に関する基本的数値目標

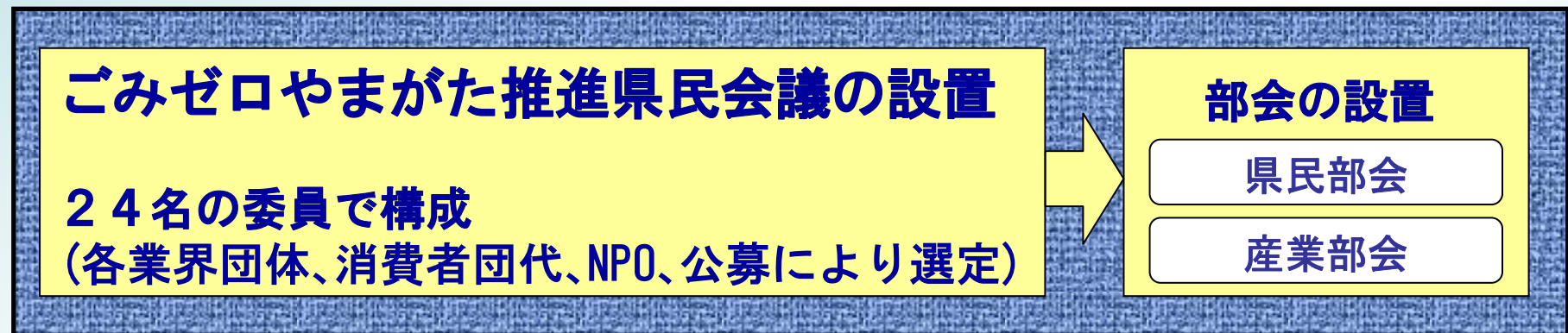
項目	現在値(H16)	目標値(H22)	目標値(H27)
ごみ(一般廃棄物)リサイクル率	19.9%	23%	30%
産業廃棄物リサイクル率	53.6%	54.0%	55.8%

3 適正処理に関する基本的数値目標

項目	現在値(H16)	目標値(H22)	目標値(H27)
ごみ(一般廃棄物)最終処分量	60千トン	55千トン	40千トン
産業廃棄物最終処分量	252千トン	199千トン	161千トン

ごみゼロやまがたの実現に向けた取組み(1)

ごみゼロやまがた県民運動の推進



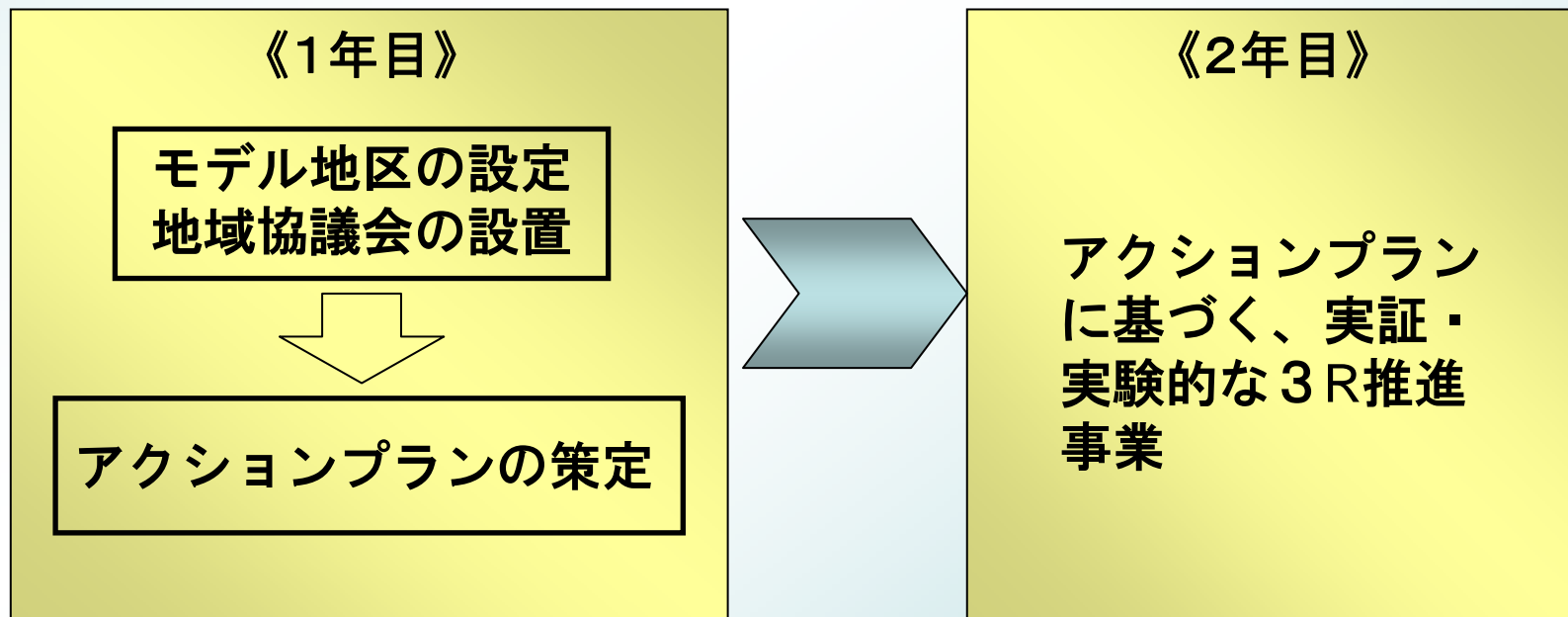
ごみゼロやまがた県民運動の実施

- ・ ごみゼロやまがたキャンペーン (6月・10月)
- ・ ゼロエミッション事業者拡大キャンペーン (6月・10月)
- ・ ごみゼロやまがた県民運動キャラクターの募集
- ・ ごみゼロやまがた推進県民大会 (10月)

ごみゼロやまがたの実現に向けた取組み(2)

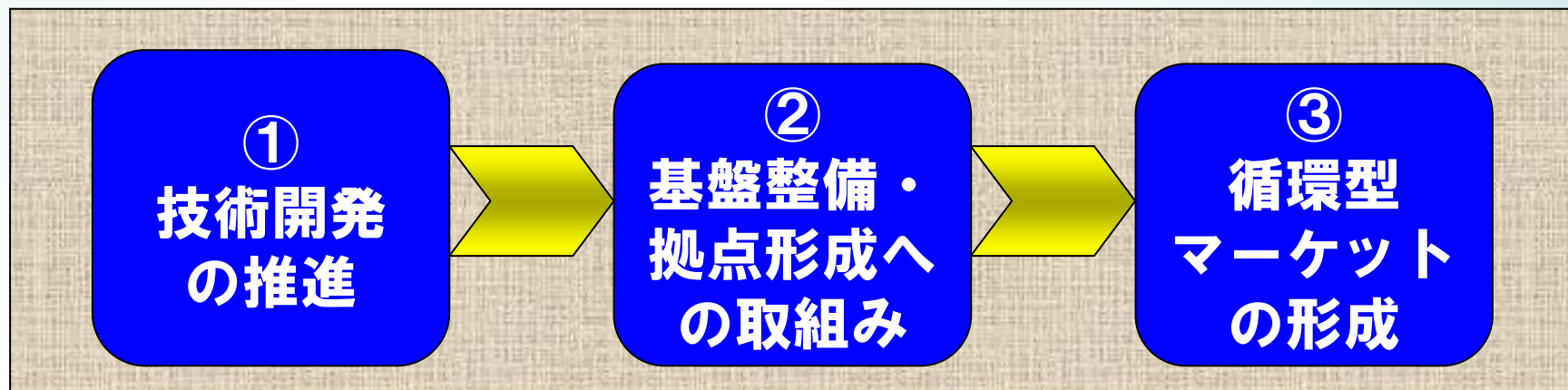
ごみゼロモデル事業 (補助金：補助率1/2)

市町村がモデル地区を設定し、市町村・地域住民・事業者等が連携して行う、モデル地区内の全量リサイクルに向けた取組みに対する支援。H18年度：1市1町（4地区）で実施。



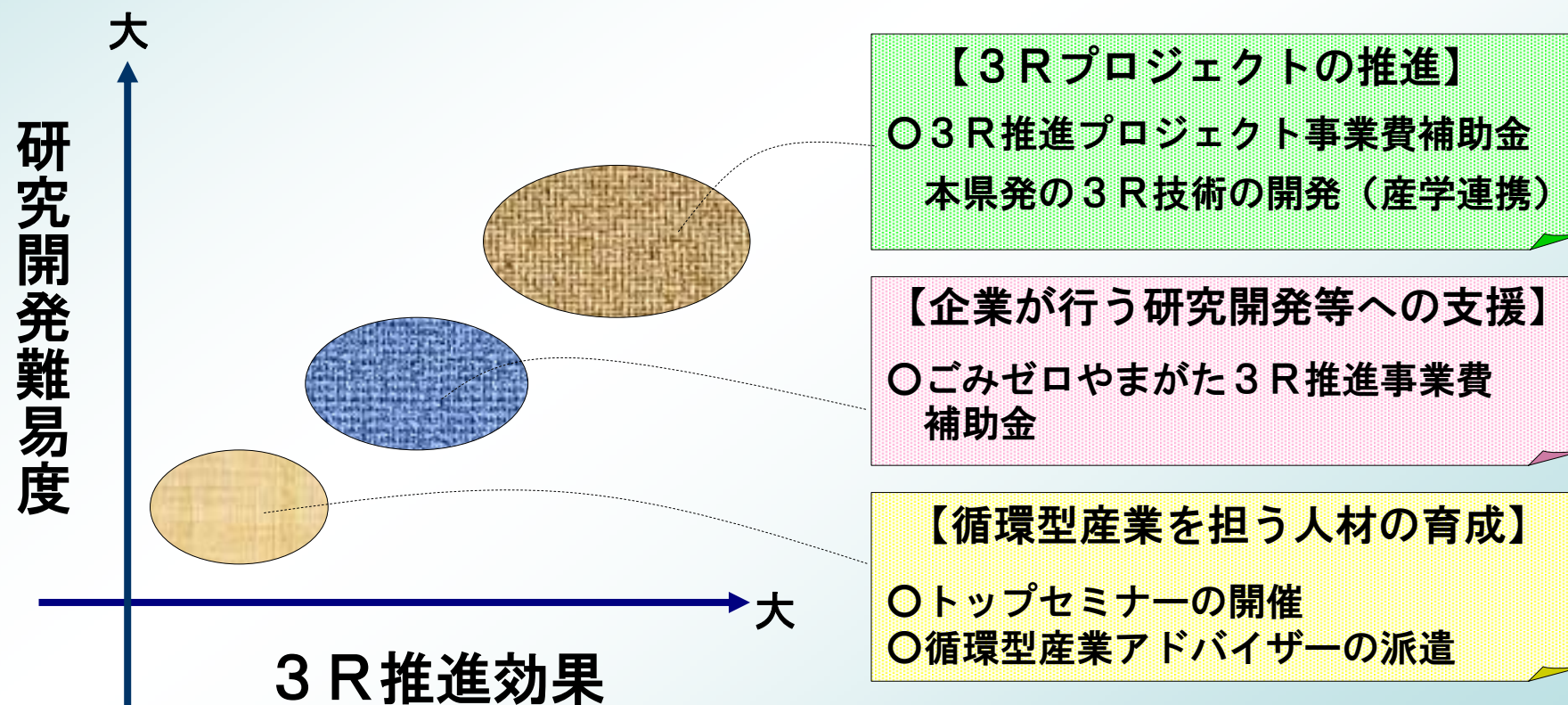
ごみゼロやまがたの実現に向けた取組み(3)

循環型産業の振興



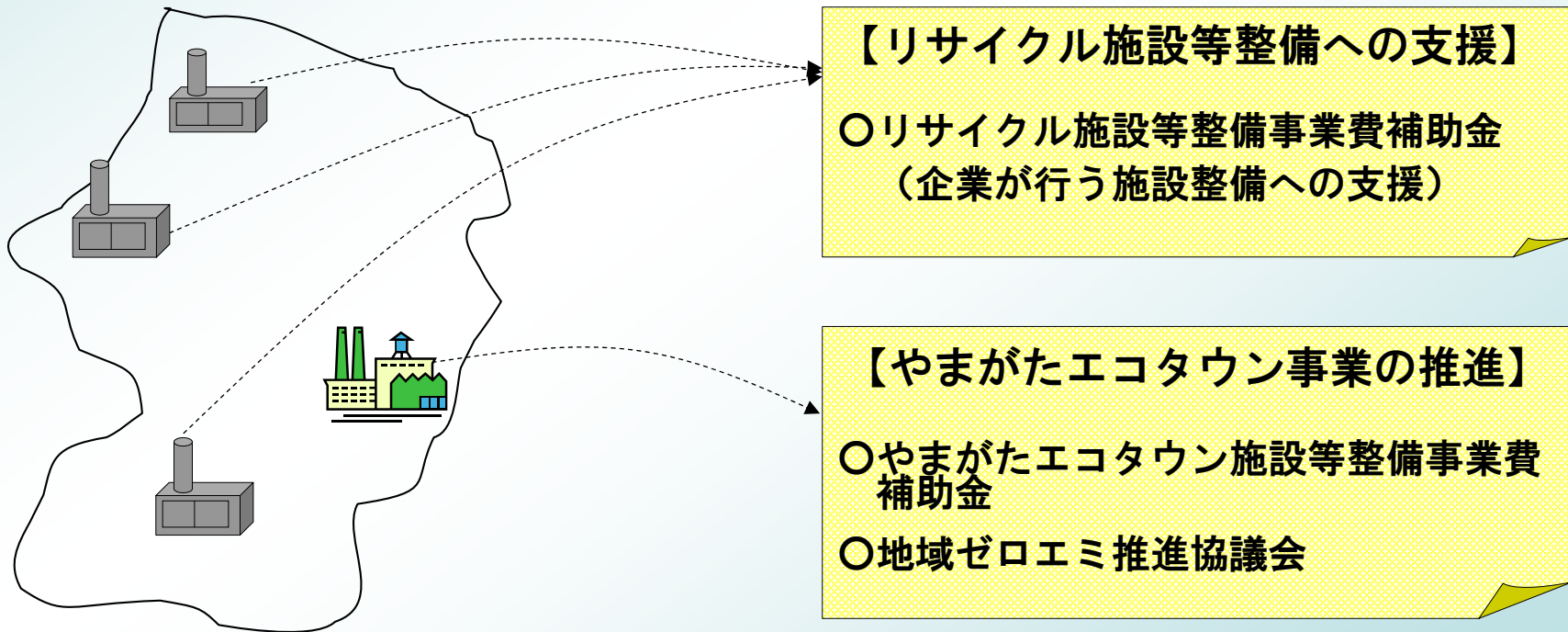
①技術開発の推進

産学官が連携して本県発のリサイクル技術を構築



② 基盤整備・拠点形成への取組み

地域ゼロエミッションを目指すための、
循環型産業の拠点形成



③循環型マーケットの形成

リサイクル製品や循環システムの認証、利用推進

【リサイクル製品認定、リサイクル認証】

- リサイクル認定製品
- リサイクル認証制度

【リサイクル認定製品等普及促進事業】

- （ユーザー向け）業界別リサイクル認定製品等普及セミナー
- （リサイクル企業向け）リサイクル認定製品等の販路拡大支援

【ごみゼロやまがた見本市】

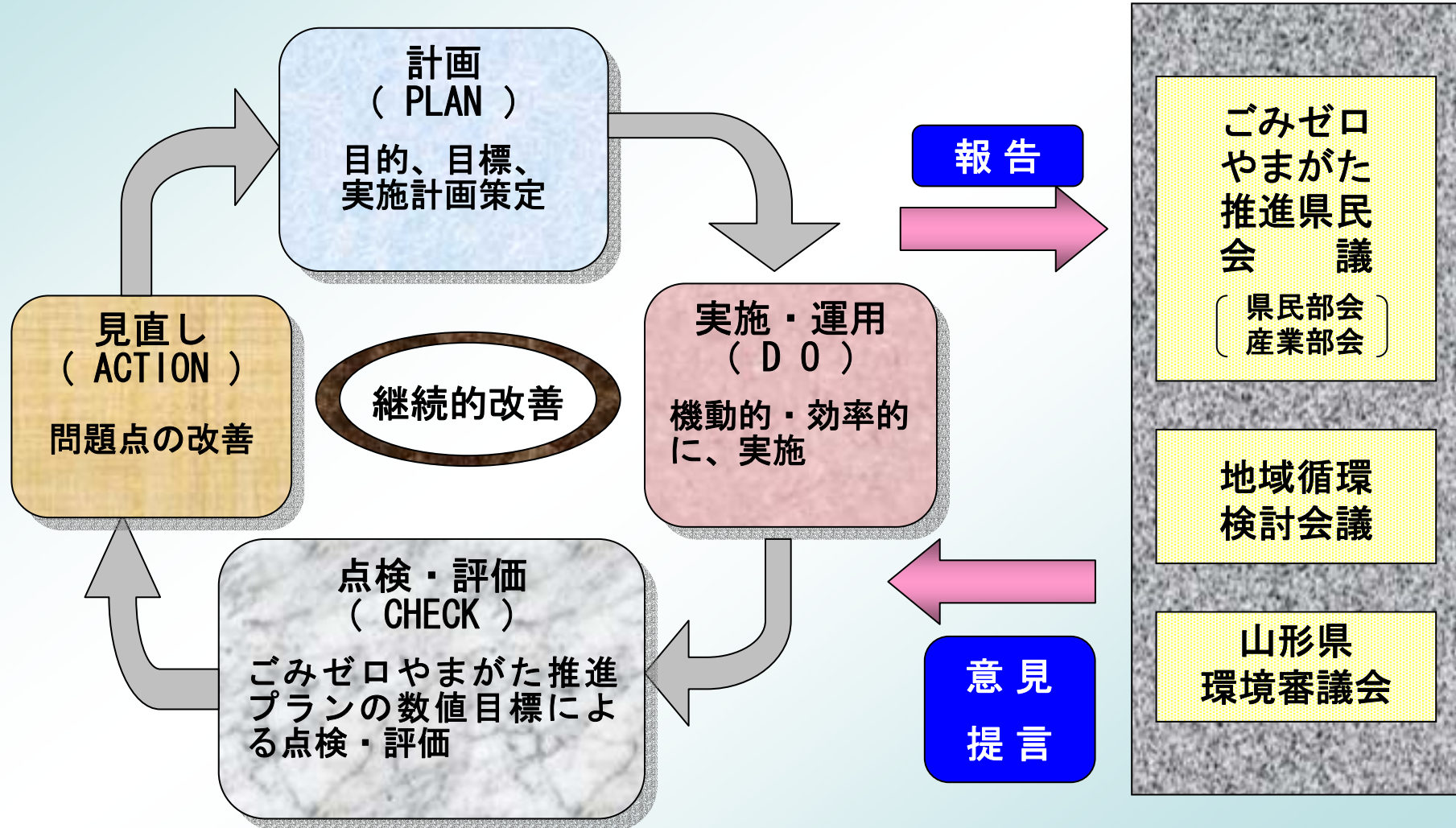
日時：平成19年10月開催

内容：①リサイクル製品等展示
②環境講演
③リサイクル工作教室等

※3R推進東北大会と併催



ごみゼロやまがた推進プラン の進行管理



今後の成果と課題

今後期待される成果

- 県民運動による3R推進
- ごみゼロモデル事業の推進

- 一般廃棄物の発生抑制
- リサイクル率の上昇
- ごみの最終処分量の減少

- 循環型産業の振興
 - ・ 技術開発の推進
 - ・ 基盤整備・拠点形成
 - ・ 循環型マーケットの形成

- リサイクル製品の市場拡大
- 今後5年間で、新たに10万+の廃棄物が資源として活用される。

今後の課題

- ・ 県民意識に実効性のある啓発活動
- ・ 安価なコストでの3Rの推進
- ・ 高付加価値のある技術開発
- ・ 市場競争力のある製品
- ・ リサイクル製品の市場拡大